

授業概要

令和 7（2025）年度

専門学校福祉リソースカレッジ広島

精神保健福祉学科

授 業 概 要

授業のタイトル 医学概論		授業の種類 ☒ 講義・演習・実習	授業担当者 原 寿美子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・次期 1年 前期	☒ 必須・選択
【教員実務経験】 原 寿美子 看護師国家資格取得後、医療機関における実務経験あり			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 2. 健康・疾病の捉え方について理解する。 3. 身体構造と心身機能について理解する。 4. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 5. リハビリテーションの概要と範囲について理解する。 6. 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションについて理解する。 7. 公衆衛生について理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 人間の身体の仕組みやサービス利用者の対象となりやすい病気やけが、そして、その回復過程とリハビリテーションの関わりについて学び、その人らしい生活を考える。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 サービスを必要とする利用者の心身の状態を理解し、その人らしい生活が継続できるような支援を利用者とともに考えるための医学的基礎知識の修得をめざす。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. ライフステージにおける心身の変化と健康課題 2. 心身の加齢・老化 3. ライフステージ別の健康課題 4. 健康と疾病の概念 5. 国際生活機能分類(ICF) 6. 人体構造と心身機能 7. 疾病の発生原因と成立機序 8. リハビリテーションの概念と範囲 9. 感染症・神経疾患・認知症・高次機能障害・脳血管疾患 10. 心疾患・内分泌・代謝疾患・呼吸器疾患 11. 腎・泌尿器疾患・消化器・胆肝膵疾患・骨・関節の疾患 12. 血液・免疫・アレルギー疾患・眼科疾患、視覚障害・耳鼻咽喉科疾患 13. 聴覚障害、平衡機能障害・口腔疾患・婦人科・産科・精神疾患・精神障害 14. 発達障害・小児科疾患、肢体不自由、知的障害・高齢者に多い疾患・生活習慣病 15. 悪性腫瘍と緩和ケア・公衆衛生			
〔使用テキスト・参考文献〕 『医学概論』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 心理学理論と心理的支援		授業の種類 ☒ 講義・演習・実習	授業担当者 三宅 舞
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・次期 1 年 後期	☒ 必須・選択
【教員実務経験】 三宅 舞 臨床心理士資格取得後、公立学校等におけるスクールカウンセラーとしての実務経験あり			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。 2. 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 3. 日常生活と心の健康との関係について理解する。 4. 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解できる。 〔授業全体の内容の概要〕 人の心の動きやとらえ方について基礎的な知識の理解をはかると共に、対象者の理解や他の専門職との連携で不可欠となる利用者理解の姿勢を育む。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解することを目指す。発達段階に応じた関りや、心理的支援の基本的技法について理解することを目指す。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 心理学の歴史と対象 2. 心を探究する方法の発展 3. 心の生物学的基盤 4. 感情・動機づけ・欲求 5. 感覚・知覚 6. 学習・行動 7. 認知 8. 個人差 9. 人と環境 10. 生涯発達 11. 心の発達の基盤 12. 日常生活と心の健康 13. 心理アセスメント 14. 心理的支援技法 15. 心理療法におけるアセスメントと介入技法			
〔使用テキスト・参考文献〕 『心理学理論と心理的支援』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 社会学と社会システム		授業の種類 ☒ 講義・演習・実習	授業担当者 鈴木 誠志 ・ 畠山 護三・一藤 浩隆
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・次期 1 年 前期	☒ 必須・選択
【教員実務経験】 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 現代社会の特性を理解する。 2. 生活の多様性について理解する。 3. 人と社会の関係について理解する。 4. 社会問題とその背景について理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 対人援助職は、利用者理解もさることながら、その周辺の社会の動きについても理解が求められる。本講では利用者は当然のことながら、援助者をも含む社会がどのような成り立ち担っているのかについて、科学的に見ることのできる視点を育む。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 人の生活する社会環境、社会の仕組みや文化、生活様式に目が向けられる福祉士を目指す。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 社会学の歴史と対象 2. 社会システム・組織と集団 3. 人口 4. グローバリゼーション 5. 地域・環境 6. 社会的格差 7. 社会政策と社会問題 8. 差別と偏見 9. 災害と復興 10. 家族とジェンダー・健康 11. 労働 12. 世代 13. 自己と他者 14. 社会化 15. 相互行為			
〔使用テキスト・参考文献〕 『社会学と社会システム』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 社会福祉の原理と政策		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当者 亀山 悠 ・今井 裕介・畠山 京子 ・米田 耕・栗原 奨 ・渡邊 美加・畠山 護三
授業の回数 30 回	時間数 60 時間	配当学年・次期 1 年 前期 後期	必須 ・選択
【教員実務経験】 亀山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 2. 社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 3. 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。 4. 福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。 5. 福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。 6. 福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 7. 福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 現代社会において、昨今、なぜ「福祉」が叫ばれるようになったのかを論理的に考える。 社会福祉の歴史的展開について、諸外国と我が国の比較をとおして我が国の福祉政策の特性について整理する。また、動向を見つめなおし今後の課題を検討する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 現代社会において、何が課題なのか、その課題を解決するために何が必要なのかについて理解する。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 社会福祉の原理を学ぶ視点 2. 社会福祉の歴史を学ぶ視点 3. 我が国における社会福祉の歴史的展開 ① 4. 我が国における社会福祉の歴史的展開 ② 5. 欧米の社会福祉の歴史的展開 ① 6. 欧米の社会福祉の歴史的展開 ② 7. 社会福祉の思想・哲学 8. 社会福祉の理論 9. 社会福祉の論点 ① 10. 社会福祉の論点 ② 11. 社会福祉の対象とニーズ 12. 現代における社会問題 13. 社会問題の構造的背景 14. 福祉政策の基本的な視点 15. 福祉政策の概念・理念		16. 福祉政策におけるニーズ 17. 福祉政策における資源 18. 福祉政策の構成要素 ① 19. 福祉政策の構成要素 ② 20. 福祉政策の過程 21. 福祉政策の動向と課題 22. 福祉政策と包括的支援 ① 23. 福祉政策と包括的支援 ② 24. 福祉政策と関連施策 25. 福祉サービスの供給と利用過程 ① 26. 福祉サービスの供給と利用過程 ② 27. 福祉サービスの供給と利用過程 ③ 28. 福祉政策の国際比較 29. ソーシャルワーク活動と福祉政策の関係 30. 社会政策における今後の課題	
〔使用テキスト・参考文献〕 『社会福祉の原理と政策』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 地域福祉と包括的支援体制		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当者 栗原 奨 ・今井 裕介・穂山 悠 ・米田 耕・渡邊 美加 ・畠山 護三
授業の回数 30 回	時間数 60 時間	配当学年・次期 1 年 前期 後期	必須 ・選択
【教員実務経験】 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 穂山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 3. 地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 5. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 地域共生社会の実現に向け、包括的支援体制・多機関協働の重要性を理解する。また、災害時等における包括的支援体制の重要性についても理解する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 暮らしを支える地域の役割や意義について理解する姿勢を育み、住み慣れた地域を支えるために何が必要かについて考える姿勢を習得する。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 地域社会の概念と理論 2. 多様化・複雑化した地域課題の現状 3. 地域福祉と社会的孤立 4. 地域包括ケアシステム 5. 生活困窮者自立支援の考え方 6. 包括的支援体制 7. 地域共生社会 8. 地域福祉ガバナンス 9. 多職種連携 10. 地域福祉の概念と理論 11. 地域福祉の動向 12. 地域福祉の動向 13. 地域福祉の推進主体 14. 地域を基盤としたソーシャルワークの展開 15. ソーシャルワークの具体的展開		16. 災害時における法制度 17. 災害時における包括的な支援 18. 福祉計画の定義や機能 19. 地域福祉計画 20. 福祉計画の策定過程と方法 21. 福祉計画におけるニーズ把握の方法 22. 福祉計画における評価 23. 福祉行財政における国の役割 24. 福祉行財政における都道府県の役割 25. 福祉行財政における市町村の役割 26. 国と地方の関係 27. 地方財政における歳出について 28. 民生費 29. 福祉における財源 30. 総括	
〔使用テキスト・参考文献〕 『地域福祉と包括的支援体制』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 社会保障		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 菰口 陽明 ・ 畠山 護三	
授業の回数 30 回	時間数 60 時間		配当学年・次期 1 年 前期 後期	必須・選択
【教員実務経験】 菰口 陽明 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得				
[授業の目的・ねらい] 1. 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。 2. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。 3. 社会保障制度の財政について理解する。 4. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 5. 社会保障制度の体系と概要について理解する。 6. 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。				
[授業全体の内容の概要] 要援護者の安心した暮らしを支えるためには対人援助職として年金、医療をはじめとする社会保障制度についての理解が不可欠である。この講座では、要援護者が安心して生活を営むための社会保障について考える姿勢を育む。				
[授業修了時の到達課題（到達目標）] 福祉専門職として、要援護者の視点に立って活用可能な社会保障制度を提案できる力を目指す。				
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 人口動態の変化 2. 経済環境の変化 3. 労働環境の変化 4. 少子高齢化と社会保障制度との関係 5. 社会保障の概念と範囲 6. 社会保障の役割と意義 7. 社会保障の理念 8. 社会保障の対象 9. 社会保障制度の歴史的変遷 10. 社会保障制度の展開 11. 社会保障の財源 12. 社会保障給付費 13. 社会保障と経済 14. 社会保険の概要と範囲 15. 社会扶助の概念と範囲			16. 公的保険と民間保険 17. 医療保険制度の概要 18. 医療保険制度の財源及び公費負担医療 19. 介護保険制度の概要 20. 介護保険給付内容・財源構成 21. 年金保険制度の概要 22. 年金保険給付内容・財源構成 23. 労働災害保険制度の概要 24. 雇用保険の概要 25. 生活保護制度の目的・対象 26. 生活保護制度の概要 27. 社会手当の概要 28. 社会福祉制度の概要 29. 諸外国の社会保障の概要 30. 社会保障の今日の課題	
[使用テキスト・参考文献] 『社会保障』（中央法規出版）			[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 障害者福祉		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当者 栗原 奨 ・今井 裕介・亀山 悠 ・米田 耕・渡邊 美加 ・畠山 護三
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・次期 1年 後期	必須 ・選択
【教員実務経験】 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 亀山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 2. 障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度について理解する。 3. 障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 4. 障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 障害を有する人たちが地域での生活を営むためには、どのような支援が必要なのかという視点に立って、障害者自立支援法を中心とする障害者保健福祉サービスについて理解する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 サービスを利用する側の視点に立った障害者保健福祉施策の理解に努める。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 障害者の定義と特性 2. 国際生活機能分類と障害の社会モデル 3. 障害者観の変遷 4. 障害者福祉の理念 5. 障害者処遇の変遷 6. 障害者権利条約と障害者基本法 7. 障害者の生活実態 8. 身体障害者福祉法及び知的障害者福祉法 9. 精神保健福祉法 10. 児童福祉法及び発達障害者支援法 11. 障害者総合支援法 12. 障害者虐待防止法及び差別解消法 13. 障害者と家族支援における関係機関の役割 14. 障害者領域におけるソーシャルワーカーの役割 15. 総括			
〔使用テキスト・参考文献〕 『障害者福祉』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 権利擁護を支える法制度		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当者 檜垣 宏太 ・今井 裕介・亀山 悠 ・米田 耕・栗原 奨 ・渡邊 美加・畠山 護三
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・次期 1 年 前期	必須 ・選択
【教員実務経験】 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 亀山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 2. 権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 3. 権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実践について理解する。 4. 権利擁護を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 5. ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 認知症や精神疾患をもつ要支援者が安心して生活していくためにも、法制度全般を含め、成年後見制度や日常生活支援制度を理解することが求められている。また、それがどのような内容なのかについて利用する側の視点にたって理解するように心がける。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 法制度全般について一般的な理解を得る。 利用者の視点にたって成年後見制度の概要とその課題について理解できるか。 利用者が成年後見制度を利用できるように福祉職としての役割を果たすための知識と技術を育む。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. イントロダクション 2. 法の理想／法の現実 3. 私法概論① 4. 私法概論② 5. 刑事法概論① 6. 刑事法概論② 7. 訴訟法概論 8. 事実認定論 9. 行政法概論① 10. 行政法概論② 11. 憲法概論① 12. 憲法概論② 13. 成年後見制度と家庭裁判所 14. 近時のソーシャルワーク法の動向 15. まとめ			
〔使用テキスト・参考文献〕 『権利擁護を支える法制度』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 刑事司法と福祉		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当者 河村 隆史 ・今井 裕介・米田 耕 ・栗原 奨・渡邊 美加 ・梶山 悠・畠山 護三
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・次期 1年 後期	必須 ・選択
【教員実務経験】 河村 隆史 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 梶山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 2. 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 3. 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 今日の福祉サービスの対象は要介護の高齢者や障害者、成長発達途上の子どもや疾病をもつものに限定されるものではない。刑事司法や少年司法とのかかわりをもったものが生活をいかに立て直すかも大きな課題である。生活の立て直しとそれにかかわる社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる知識や技術について考える。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 生活のやり直しという視点にたち、何が必要なのか、課題解決に向けてどのような支援が必要なのか。被害者支援をどのように考えるのかなど、総合的な視点に立った生活のあり方を考える力を育む。			
〔授業の日程と各テーマ〕 1. 刑事司法と福祉における総論 2. 社会と犯罪 3. 犯罪原因論の対策 4. 刑罰とは何か 5. 刑事司法 6. 少年司法 7. 施設内処遇①成人 8. 施設内処遇②少年 9. 社会内処遇の理論と実践 10. 多様なニーズを有する犯罪行為者①医療観察法 11. 多様なニーズを有する犯罪行為者②高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉 12. 多様なニーズを有する犯罪行為者③アディクションを抱える人と刑事司法 13. 犯罪被害者支援 14. コミュニティと刑事司法 15. 総括・まとめ			
〔使用テキスト・参考文献〕 『刑事司法と福祉』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 社会福祉調査の基礎		授業の種類 ☒ 講義・演習・実習	授業担当者 今井 裕介・畠山 護三
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・次期 1 年 後期	☒ 必須・選択
【教員実務経験】 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 社会福祉調査の意義と目的について理解する。 2. 社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。 3. 社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 4. 量的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 5. 質的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 6. ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 社会調査の意義や調査方法、調査に必要な質問用紙の作成について理解を図る。また、量的検査で用いる質問用紙の作成についても理解する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 調査を行う際の留意点を体得すると共に、量的調査・質的調査のそれぞれのメリット・デメリットを理解する。ソーシャルワークの評価についても理解する。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 社会福祉調査の意義と目的 2. 社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係 3. 社会福祉調査における倫理 4. 社会福祉調査の対象 5. 自計式調査と他計式調査 6. 調査データ収集・分析 7. 量的調査票の概要及び種類と方法 8. 質問紙の作成方法と留意点 9. 量的調査の集計と分析 10. 質的調査の概要 11. 観察法及び面接法 12. 質的調査における方法と留意点 13. 質的調査のデータ分析方法 14. ソーシャルワークにおける評価の意義及び対象 15. ソーシャルワークにおける評価方法			
〔使用テキスト・参考文献〕 『社会福祉調査の基礎』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施する。 評価配分は科目テスト 100%とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 精神医学と精神医療		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 菊本 修
授業の回数 30 回	時間数 60 時間	配当学年・次期 1 年 前期 後期	必須・選択
【教員実務経験】 菊本 修 医師国家資格取得後、精神科における医師の実務経験あり			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解させる。 2. 精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解させる。 3. 精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解させる。 4. 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解させる。 〔授業全体の内容の概要〕 代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援等を学ぶ。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士の担うべき役割を理解する。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 精神医学、医療の歴史と現状 2. 精神現象の生物学的基礎 3. こころの理解 4. 精神障害の概念 5. 精神疾患の成因と分類 6. 精神症状と状態像 7. 診断の手順と方法 8. 心理的検査と身体的検査 9. 代表的な精神疾患 ①器質性精神病 10. 代表的な精神疾患 ②精神作用物質による精神及び行動の障害 11. 代表的な精神疾患 ③統合失調症 12. 代表的な精神疾患 ④気分障害 13. 代表的な精神疾患 ⑤神経症障害 14. 代表的な精神疾患 ④パーソナリティ障害 15. 代表的な精神疾患 ⑤精神遅滞・広汎性発達障害		16. 代表的な精神疾患 ⑥多動性障害・行動障害 17. 精神疾患の治療 ①精神科薬物療法 18. 精神疾患の治療 ②電気けいれん療法など 19. 精神疾患の治療 ③精神療法 20. 精神疾患の治療 ④精神科リハビリテーション 21. 精神疾患の治療 ⑤環境・社会療法 22. 疾病構造の変化 23. 外来診療・在宅診療 24. 入院療法 25. 医療観察法対象者の支援 26. 精神科治療と入院形態 27. 隔離、拘束のあり方 28. 移送制度による入院 29. 再発予防のための支援 30. 退院促進のための支援	
〔使用テキスト・参考文献〕 『精神医学と精神医療』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 現代の精神保健の課題と支援		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当者 今井 裕介 ・ 畠山 護三
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・次期 1年 前期・後期	必須 ・選択
【教員実務経験】 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 2. 精神保健の基本的考え方を理解する。 3. 現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。 4. 精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 5. 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 現代社会の精神保健の課題およびその支援について学ぶ。テキスト以外の資料も利用し（その都度配布）、映像等も利用する。実務者等の話を聞く場合もある。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 現代の精神保健の現状と、現代社会が抱える様々な課題に対する支援を理解する。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 精神の健康についての基本知識 2. 精神保健の概要 3. ライフサイクルと精神の健康 4. 現代の精神保健分野の動向 5. 生活と嗜好 6. ストレスと精神の健康 7. 生活習慣と精神の健康 8. 精神保健に関する予防の概念と対象 9. 家族関係における暴力を精神保健 10. 出産・育児をめぐる精神保健 11. 介護をめぐる精神保健 12. 社会的引きこもりとめぐる精神保健 13. グリーフケア 14. 家庭内の問題を相談する機関における精神保健 福祉士の役割 15. 現代日本の学校教育と生徒児童の特徴		16. 教員の精神保健 17. 学校における精神保健福祉士の役割 18. 現代日本の労働環境 19. 産業精神保健とその対策 20. 自殺予防 21. 貧困問題と精神保健 22. 飲酒やギャンブルなど依存に関する問題 23. 発達障害に対する対策 24. アルコール・薬物依存対策 25. うつ病と自殺防止対策 26. 認知症高齢者に対する対策 27. 災害・犯罪被害者の精神保健 28. 性的マイノリティと精神保健 29. 地域精神保健に関する諸活動 30. 諸外国の精神保健活動の現状および対策	
〔使用テキスト・参考文献〕 『現代の精神保健の課題と支援』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施する。 評価配分は、科目テスト 100%とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル ソーシャルワークの基盤と専門職		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当者 米田 耕 ・今井 裕介・亀山 悠 ・中濱 恵梨加・栗原 奨 ・岡田 妙子・渡邊 美加 ・畠山 護三
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・次期 1年 前期	必須 ・選択
【教員実務経験】 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 亀山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 2. ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 3. ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 社会福祉士及び精神保健福祉士の意義や役割について理解をはかることを狙いとする。 そのためには、対人援助職の沿革や業績を振り返りながら、今日のソーシャルワークの定義や倫理綱領を取りあげる。更に、対人援助の理念として、人権尊重や社会正義、利用者本位などについて具体例を交えながら理解する姿勢を育む。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義について、具体例を交えながら第三者に対して説明可能な理解や態度を育む。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 社会福祉士及び介護福祉士法における社会福祉士の法的な位置づけ 2. 社会福祉士の専門性 3. 精神保健福祉士法の法的な位置づけ 4. 精神保健福祉士の専門性 5. ソーシャルワークの定義 6. ソーシャルワークの原理 7. ソーシャルワークの理念 8. ソーシャルワークの基盤となる考え方 9. ソーシャルワークの形成過程 ① 10. ソーシャルワークの形成過程 ② 11. ソーシャルワークの形成過程③ 12. ソーシャルワークの専門職倫理の概念 13. 倫理綱領、倫理的ジレンマ 14. ソーシャルワークとノーマライゼーション 15. ソーシャルワーク実践			
〔使用テキスト・参考文献〕 『ソーシャルワークの基盤と専門職』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 精神保健福祉の原理		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 岡田 妙子・今井 裕介 ・米田 耕・亀山 悠 ・中濱 恵梨加・渡邊 美加
授業の回数 30 回	時間数 60 回	配当学年・次期 1 年 前期 後期	必須・選択
【教員実務経験】 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 亀山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組みについて理解する。 2. 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 3. 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 4. 精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的 アイデンティティの基礎を築く。 5. 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 精神保健福祉士の主な対象と社会の捉え方、精神障害のある人々が置かれている状況や環境・状況に対するソーシャルワークの展開を支える精神保健福祉士の存在意義について学ぶ。映像の利用や施設見学も実施する（予定）。実務者等の話を聞く場合もある。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 精神保健医療福祉に関する法的変遷を学び、ソーシャルワーク専門職である精神保健福祉士の存在意義について理解し、精神保健福祉士らしいものの見方や、考え方、行動ができるよう理解する。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 精神保健福祉の原理とは何か 2. 障害の捉え方 3. 障害者福祉の理念 4. 精神障害者福祉の歴史的展開 5. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築へ 6. 制度における「精神障害者」の定義 7. 国際生活機能分類（ICF）と精神障害 8. 精神障害を構造的に理解する 9. 精神障害の障害特性 10. 自助グループ、当事者研究 11. 日本と諸外国の共通点と相違点 12. アメリカから始まった精神保健運動 13. イタリアにおける精神医療改革 14. 精神障害者に係る施策の動向に影響を与えた各種事件 15. 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み		16. 人権侵害としての施設コンフリクトとその対応 17. 精神科医療による生活への影響 18. 精神障害者の生活特性と支援の展開 19. 精神障害者の家族が置かれている状況 20. 精神障害者の社会生活の実際 21. メンタルヘルスをめぐる新たな課題 22. 精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程 23. 精神保健福祉士による実践の価値・原理 24. 精神保健福祉士による実践の視野や視点 25. 援助における関係性 26. 精神保健福祉士法の理解 27. 精神保健福祉士の職業倫理 28. 精神保健福祉士の業務特性と業務指針 29. 精神保健福祉士の職場・職域 30. 精神保健福祉士の業務内容とその特性	
〔使用テキスト・参考文献〕 『精神保健福祉の原理』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上出席の者に対して試験を実施する。評価配分は科目テスト 100%とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル ソーシャルワークの理論と方法		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当者 栗原 奨 ・今井 裕介 ・米田 耕・亀山 悠 ・岡田 妙子・渡邊 美加 ・中濱 恵梨加・畠山 護三
授業の回数 30 回	時間数 60 時間	配当学年・次期 1 年 前期 後期	必須 ・選択
【教員実務経験】 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 亀山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 ソーシャルワークを展開するための考え方を理論的に理解する。そのためには、先人たちの提唱するモデルやアプローチについても理解を図る。とりわけ、効果的な援助活動を展開するためには、面接技法、記録、スーパービジョン、個人情報保護などについての理解が欠かせない。本講では、具体的な相談場面を想定しながらソーシャルワーク活動の理解を図る。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 利用者のニーズを把握するための知識を育み、ニーズに適した援助計画の立案や実施ができる能力や態度を養う。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. ソーシャルワーカーが学ぶ理論 2. 生態学理論と BPS モデル 3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 4. ケースの発見及びエンゲージメント 5. アセスメント、プランニング、モニタリング 6. 支援の評価及び終結 7. 治療モデル 8. ストレングスモデル 9. 生活モデル 10. 心理社会的アプローチ 11. 機能的アプローチ 12. 問題解決アプローチ 13. 課題中心アプローチ 14. 行動変容アプローチ 15. 認知アプローチ		16. 危機介入アプローチ 17. エンパワメントアプローチ 18. ナラティブアプローチ 19. 解決志向アプローチ 20. 様々なアプローチ 21. ソーシャルワークの面接 22. ソーシャルワークの記録 23. ケアマネジメント 24. グループワークの意義と目的 25. グループワークの展開過程 26. コミュニティワークの展開 27. ソーシャルアドミニストレーションの概念 28. ソーシャルアクション 29. スーパービジョンとコンサルテーション 30. 総括	
〔使用テキスト・参考文献〕 『ソーシャルワークの理論と方法』（中央法規出版）		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル ソーシャルワークの理論と方法 (専門)		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当者 米田 耕 ・今井 裕介・穂山 悠 ・中濱 恵梨加・岡田 妙子 ・渡邊 美加・畠山 京子
授業の回数 30 回	時間数 60 時間	配当学年・次期 1 年 前期 後期	必須 ・選択
【教員実務経験】 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 穂山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 2. 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 3. 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。 4. 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。 5. 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。 6. 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程、精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法、多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割などについて学ぶ。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 課題解決のための実践知と支援システムを創造する取り組みを理解する。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. ソーシャルワークの構成要素 2. ソーシャルワークの展開過程 3. 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本視点 4. ミクロ・メゾ・マクロレベル 5. 援助関係の形成技法 6. インテーク 7. アセスメント 8. 面接技術とその応用 9. グループワーク(集団援助技術) 10. アウトリーチ 11. 支援の展開(人・環境へのアプローチ) 12. 支援の展開(ケアマネジメント) 13. 精神障害者家族の課題 14. 家族理解の変遷 15. 家族支援の方法		16. 精神保健福祉分野におけるコミュニティワーク 17. 地域における精神保健福祉の向上 18. ソーシャルアクションの基本的視点 19. 個別支援から地域における体制整備 20. 政策提言・政策展開 21. 精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開 22. 多職種連携の意義と目的 23. 多職種連携・多機関連携の留意点 24. チームビルディング 25. チームの形態と特徴 26. 連携における精神保健福祉士の役割 27. 多職種連携・多機関連携の実際 28. ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 29. ソーシャルアドミニストレーションの展開方法 30. 関連分野における実践展開	
〔使用テキスト・参考文献〕 『ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)』 (中央法規出版)		〔単位認定の方法及び基準〕 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、 60 点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル 精神障害リハビリテーション論		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 今井 裕介 ・米田 耕・穂山 悠 ・中濱 恵梨加・岡田 妙子 ・渡邊 美加
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・次期 1 年 前期	必須・選択
【教員実務経験】 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 穂山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり			
[授業の目的・ねらい] 1. 精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 2. 精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 3. 精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。 [授業全体の内容の概要] 精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係を整理し、精神障害リハビリテーションの内容について学ぶ。SST（社会生活技能訓練）や認知行動療法に加え、マインドフルネス、オープンダイアログ、当事者研究などについても学ぶ。映像等も利用し、学習を進める。実務者等の話を聞く場合もある。 [授業修了時の到達課題（到達目標）] 社会の変化に対応されるようになった精神障害リハビリテーションと、拡大する精神保健福祉士の役割について理解する。			
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係 2. 精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 3. 精神障害リハビリテーションの理念と定義 4. 精神障害リハビリテーションの基本原則 5. 地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義 6. 精神障害リハビリテーションの対象 7. 精神障害リハビリテーションのプロセス 8. 医学的リハビリテーションプログラム（認知行動療法、マインドフルネス等） 9. 職業的リハビリテーションプログラム 10. 社会的リハビリテーションプログラム（SST、当事者研究等） 11. 教育的リハビリテーションプログラム 12. 家族支援プログラム 13. リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム 14. 精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション 15. 依存症のリハビリテーション			
[使用テキスト・参考文献] 『精神障害リハビリテーション論』（中央法規出版）		[[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施する。 評価配分は科目テスト 100%とすつ。	

授 業 概 要

授業のタイトル 精神保健福祉制度論		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当者 米田 耕 ・今井 裕介・穂山 悠 ・中濱 恵梨加・岡田 妙子 ・渡邊 美加
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・次期 1 年 後期	必須 ・選択
【教員実務経験】 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 穂山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり			
[授業の目的・ねらい] 1. 精神障害者に関する法制度の体系について理解する。 2. 精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 3. 生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 4. 生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 5. 障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。 [授業全体の内容の概要] 主に精神障害者に関する、精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度や、生活支援に関する制度、生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度と概要と課題を学ぶ。また、これらの制度に規定されている精神保健福祉士の役割について学ぶ。 [授業修了時の到達課題（到達目標）] 法制度を知り、法律の成り立ちや課題について考え、適切に制度を活用できるよう理解する。			
[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 精神障害者に対する制度・施策の体系 2. 精神障害者に関する制度の成立過程のその特徴 3. 精神障害者に関する制度活用の流れ 4. 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割 5. 精神科医療が関わりを持つ施策 6. 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 7. 精神障害者の医療と関連する施策 8. 生活支援の基本的な考え方 9. 相談支援制度・居住支援制度 10. 就労支援制度 11. 精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の意義と役割 12. 所得保障にかかわる経済的支援 13. 経済的負担の軽減 14. 生活保護制度・生活困窮者自立支援制度 15. 低所得者対策			
[使用テキスト・参考文献] 『精神保健福祉制度論』（中央法規出版）		[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル ソーシャルワーク演習		授業の種類 講義・ 演習 ・実習	授業担当者 渡邊 美加 ・今井 裕介・亀山 悠 ・米田 耕・中濱 恵梨加 ・栗原 奨・岡田 妙子 ・畠山 護三
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・次期 1 年 前期	必須 ・選択
【教員実務経験】 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 亀山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 栗原 奨 障害者支援施設における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 畠山 護三 福祉事務所、保健所等における実務経験あり 精神保健福祉士・社会福祉士国家資格取得			
〔授業の目的・ねらい〕 1. ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 2. ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 3. ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 4. ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 これまでの様々な人々との出会いを振り返り、良好な人間関係を築くためにはどのような事柄に留意しなければならないのかについて自らの体験を具体的に振り返り、ロールプレイなどの体験を通して対人援助の専門家の基盤形成を図る。また、ソーシャルワークの定義・価値・倫理を学ぶ。さらに、現代社会の中で当事者を取り巻く諸課題の把握をし、当事者のニーズや思いをソーシャルワークの過程においてどのように実現していくのか演習・グループワークをとおして学ぶ。また、社会資源の活用を学び、環境調整によるソーシャルワークの過程を理解する。併せて、ソーシャルワーク理論の手法や展開過程を学び、事例学習をとおして、実際にどのように展開されていくのかを理解する。スーパービジョンの意義や重要性を学び対人援助職としての自己点検、資質の向上に努めることを理解する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 対人援助職としての自己覚知の重要性を理解し対人援助をとおして自己理解、他者理解の重要性を理解する。面接技術・対人援助職としての基盤を習得し信頼される対人援助職とはなにかを理解する。さらに、クライアントを取り巻く諸課題に対する理解、および課題解決に向けてソーシャルワークの展開を理解する。具体事例から様々な分野の問題把握、クライアントの問題解決に繋がる理論を深め、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる実践力を身につける。			
〔授業の日程と各テーマ・内容・授業方法〕 1. 自己覚知 2. 基本的なコミュニケーション技術 3. 基本的な面接技術 4. ソーシャルワークの展開過程 ケース発見・インテーク 5. ソーシャルワークの展開過程 アセスメント・ニーズ把握 6. ソーシャルワークの展開過程 プランニング・支援実施 7. ソーシャルワークの展開過程 モニタリング・再アセスメント 8. ソーシャルワークの展開過程 支援終結・事後評価・アフターケア 9. ソーシャルワークの記録 エコマップ・ジェノグラム等 10. クライアントを取り巻く諸問題の理解 ① 社会的排除・障害 11. クライアントを取り巻く諸問題の理解 ② 児童虐待・ドメスティックバイオレンス 12. クライアントを取り巻く諸問題の理解 ③ 貧困・更生保護 13. グループダイナミクスの活用 14. グループワークの展開過程 15. プレゼンテーション技術			

[使用テキスト・参考文献] 『ソーシャルワーク演習』（中央法規出版）	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。
--	---

授 業 概 要

授業のタイトル ソーシャルワーク演習（専門）		授業の種類 講義・ 演習 ・実習	授業担当者 渡邊 美加・今井 裕介 ・米田 耕・穂山 悠 ・中濱 恵梨加・岡田 妙子
授業の回数 4 5 回	時間数 9 0 時間	配当学年・次期 1 年 前期 後期	必須 ・選択
【教員実務経験】 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 穂山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり			
〔授業の目的・ねらい〕 1. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。 2. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 3. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。 4. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 5. 精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。 〔授業全体の内容の概要〕 ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得し、諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義などについて学ぶ。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 精神保健福祉士の専門性に基づく実践に必要なソーシャルワークの視点と価値、理論や知識、援助技術を包括的に実践的に習得する。			

[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 精神保健福祉士の演習の意義と目的 2. 演習の参加 3. 演習の展開 4. 演習の方法 5. 精神保健福祉士の演習の内容 6. カリキュラム改定の背景 7. 演習の到達目標と内容 8. 精神保健福祉士に求められる力 9. 事例の読み方・使い方 10. ソーシャルワークの課題を通じた演習 11. 個人に対する相談援助の理解 12. 入院から地域移行 13. 地域移行支援から退院へ 14. グループにおける相談援助の理解 15. コミュニティソーシャルワークの理解 16. 家族からの精神科受診相談とインテーク面接 17. 医療保護入院における外国人の受診・受療支援 18. 精神科デイケアにおける多機関連携による地域生活支援 19. 精神科クリニックにおけるアルコール依存症者の回復に向けた支援 20. グループを活用した心理教育プログラムによる家族支援 21. DPAT の受け入れによる被災地の精神科病院の受援活動 22. 相談支援事業所における危機介入からの地域生活支援	23. 就労移行支援事業所における措置入院からの就労支援 24. 相談支援事業所におけるピアサポーターの養成と活動支援 25. 社会福祉協議会における精神保健福祉ボランティア養成と普及啓発 26. 地域包括支援センターにおける多機関連携による認知症高齢者への危機介入 27. 訪問型の生活訓練事業を活用したひきこもりの若者支援 28. 精神科病院からの地域移行支援と福祉サービスの 29. 保健所における自殺予防のための電話相談と普及啓発 30. 保健所における家族に対するかかわりと受診・受療に向けた支援 31. 精神医療審査会における退院請求への対応 32. 心のケアセンターにおける被災者支援とコミュニティの再生に向けた働きかけ 33. 市町村協議会（精神の部会）における障害福祉計画の立案 34. 市町村における生活困窮者への地域生活支援 35. 基幹相談支援センターにおける障害者虐待防止法に基づく取り組み 36. 児童虐待が疑われる要援護児童とその家族への支援 37. メンタルヘルス課題のある中学生への多職種・多機関連携による支 38. 合理的配慮に基づく学生支援と就業・生活支援センターにおける就労支援 39. 地域生活定着支援センターにおける触法障害者への支援 40. 更生保護施設におけるハームリダクションに基づくリカバリー支援 41. 医療観察法に基づく社会復帰調整官を中心とした他職種連携による支援 42. EAP 機関における勤労者の休職・復職支援 43. 企業における合理的配慮に基づく障害者雇用に向けた支援 44. ソーシャルワーク・コンピテンシー 45. 精神保健福祉士のキャリアラダーに基づく実践力の獲得
[使用テキスト・参考文献] 『ソーシャルワーク演習(精神専門)』 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60 点以上を合格とする。

授 業 概 要

授業のタイトル ソーシャルワーク実習指導		授業の種類 講義・ 演習 ・実習	授業担当者 米田 耕 ・今井 裕介・穂山 悠 ・中濱 恵梨加・岡田 妙子 ・渡邊 美加
授業の回数 45回	時間数 90時間	配当学年・次期 1年 前期 後期	必須 ・選択
【教員実務経験】 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 穂山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり			
〔授業の目的・ねらい〕 1. ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。 2. 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 3. ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 5. 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 〔授業全体の内容の概要〕 ソーシャルワーク実習の展開に沿って行い、実習の目的と枠組みを整理し、実習に臨むうえで必要な基本的視点について学び、精神保健福祉士の実践現場である実習期間の概要を整理し、実際に現場に出向く前に現場を理解するために必要な知識を学ぶ。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 実習計画書の作成など事前学習を行い実習の目的、その意義について理解する。			

[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 実習とは 2. ソーシャルワーカーに求められる役割① 3. ソーシャルワーカーに求められる役割② 4. ソーシャルワーク・コンピテンシー 5. 実習の意義と目的 6. 実習指導の意義と目的 7. 実習の展開 8. 実習における倫理 9. 実習における自己学習の方法 10. スーパービジョンの主な目的・機能 11. 精神科医療機関における実習 12. 障害福祉サービス事業所における実習 13. 実習における教育評価 14. 実習の構造 15. 実習におけるリスクマネジメント 16. 実習先決定に向けた準備 17. 情報収集の方法、実習記録の書き方 18. 精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割 19. 実習先で必要とされる精神保健福祉士としての専門的知識と技術 20. 実習の施設・機関の理解 21. 実習先決定後の学習の内容と方法 22. 実習計画の作成	23. 事前訪問／事前打ち合わせ 24. 実習中の学習、スーパービジョン 25. 実習中に直面する悩み 26. 実習中に起こり得る問題 27. 実習結団式 28. 実習後の学習① 29. 実習後の学習② 30. 実習後に行う評価 31. 実習過程における総括的評価の意義 32. 事後学習の目的 33. 事後学習の内容と方法 34. 実習成果を報告する目的 35. 実習総括レポートの作成① 36. 実習総括レポートの作成② 37. 実習成果の報告に向けた準備 38. 精神保健福祉士に求められる職業倫理 39. 精神保健福祉士に求められる法的責務 40. 実習成果の報告① 41. 実習成果の報告② 42. 実習成果の報告③ 43. 行政機関での実習 44. 精神保健福祉センターでの実習 45. 保健所での実習
[使用テキスト・参考文献] 『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] 授業時間の 80%以上の出席に対して試験を実施し、60点以上を合格とする。

授 業 概 要

授業のタイトル ソーシャルワーク実習		授業の種類 講義・演習・ 実習	授業担当者 米田 耕 ・今井 裕介・穂山 悠 ・中濱 恵梨加・岡田 妙子 ・渡邊 美加
授業の回数 一 回	時間数 配属実習時間数 210 時間	配当学年・次期 1 学期	必須 ・選択
【教員実務経験】 米田 耕 精神保健福祉士国家資格取得後、就労支援事業所等における精神保健福祉分野の実務経験あり 今井 裕介 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 穂山 悠 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり 岡田 妙子 精神保健福祉士国家資格取得後、地域生活支援センター等における実務経験あり 渡邊 美加 精神保健福祉士国家資格取得後、医療機関における精神保健福祉分野の実務経験あり			
[授業の目的・ねらい] 1. ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。 2. 精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。 3. 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4. 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 [授業全体の内容の概要] 講義等で総論的に得たものを各論的に体験し両者を統合して捉えることで、より深い学びに転化する。 [授業修了時の到達課題（到達目標）] ソーシャルワーカーや利用者の理解とともに、自己と向きあい多くの気づきを得る。			

[授業の日程と各テーマ・内容・授業方法] 1. 学生は、精神科病院等の病院での実習において、患者への個別 支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。 ア 受診前や入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 イ 退院又は地域移行・地域定着支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ウ 入院患者と外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 エ 病院外の関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク 2. 学生は、精神科診療所での実習において患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。 ア 受診前や治療中の患者及びその家族への相談援助 イ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ウ 外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 エ 地域の精神科病院や関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク 3. 学生は、障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。 ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 イ 利用者理解と 相談 支援ニーズの把握及び相談 支援計画の作成 ウ 利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）との相談支援関係の形成 エ 利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）への権利擁護及び 相談 支援（エンパワメントを含む。）とその評価 オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする 相談 支援におけるチームアプローチへの参加 カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守 キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚 ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の観察 ケ 当該実習先が地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察	
コ 実習先施設・機関や所屬地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察 サ 実習体験及び学習成果の考察と記述、プレゼンテーション実習総括と精神保健福祉士としての学習課題明確化、及び研鑽 計画の立案 4. 学生は、実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。 5. 実習指導担当教員は、巡回指導等を通して実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。	
[使用テキスト・参考文献] 『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』（中央法規出版）	[単位認定の方法及び基準] ・規定の実習時間を修了すること

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） H. R. 活動		授業の種類 講義・ 演習 ・実習	授業担当者 米田 耕 ・今井 裕介・栗原 奨・亀山 悠
授業の回数 5 回	時間数 1 0 時間	配当学年・次期 1 年 前期 後期	必須 ・選択
[授業全体の内容の概要] 対人的・集団的な活動は、社会において人間関係を構築していくうえで必要なことである。HR活動を通して、学生相互の関りや教員との信頼関係を深め、学修意欲、就職への意欲につなげていく。また、クラスとして目標を明確にし、PDCA（※）サイクルを確立し、常に向上心を持ち、有意義な学生生活を送れるよう指導していく。 ※Plan（計画）Do（実施・実行）Check（点検・評価） Act（処置・改善） [授業全体の内容の概要] 学生生活を有意義に送れるよう、学生や教職員との信頼関係を深める。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○学生生活における基本的知識を理解する。 ○学内ルール等を理解し、有意義な学校生活を実現する。 ○クラス運営を通じ、組織での自分の在り方を学ぶ。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 新年度オリエンテーション 2. 新年度オリエンテーション（個人写真撮影・健康診断） 3. クラス運営、学生の役割分担等の理解 4. 精神保健福祉士国家試験説明会 5. 精神保健福祉士登録申請説明会 6. 卒業式前日指導 7. その他、レクリエーション活動			
[使用テキスト・参考文献] 特になし		[単位認定の方法及び基準] 80%以上出席の者に対し、授業態度等を総合的に評価する。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 国家試験対策		授業の種類 講義・ 演習 ・実習	授業担当者 今井 裕介 ・米田 耕・栗原 奨・穂山 悠
授業の回数 20回	時間数 40時間	配当学年・次期 1年 前期 後期	必須 ・選択
[授業全体の内容の概要] 「問題演習」等を行い試験に対する意欲を高める。個人成績を把握し、その結果に基づく個別指導を行う。結果は科目、問題ごとに分析し、精神保健福祉士として相応しい知識の修得を目的とする。 [授業全体の内容の概要] 国家試験に対し、合格基準に達する実力を養う。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○試験に対する意欲を高めることができる。 ○精神保健福祉士として相応しい知識の修得ができる。 ○国家試験に対して自ら学び理解する力を養う。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 模擬問題、一問一答等の問題演習 2. 模擬問題、一問一答等の問題演習 3. 模擬問題、一問一答等の問題演習 4. 模擬問題、一問一答等の問題演習 5. 模擬問題、一問一答等の問題演習 6. 模擬問題、一問一答等の問題演習 7. 模擬問題、一問一答等の問題演習 8. 模擬問題、一問一答等の問題演習 9. 模擬問題、一問一答等の問題演習 10. 模擬問題、一問一答等の問題演習 11. 模擬問題、一問一答等の問題演習 12. 模擬問題、一問一答等の問題演習 13. 模擬問題、一問一答等の問題演習 14. 模擬問題、一問一答等の問題演習 15. 模擬問題、一問一答等の問題演習		16. 模擬問題、一問一答等の問題演習 17. 模擬問題、一問一答等の問題演習 18. 模擬問題、一問一答等の問題演習 19. 模擬問題、一問一答等の問題演習 20. 模擬問題、一問一答等の問題演習	
[使用テキスト・参考文献] 特になし		[単位認定の方法及び基準] 80%以上出席の者に対し、授業態度、小テスト(レポートを含む)で総合的に評価する。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 進路演習		授業の種類 講義・ 演習 ・実習	授業担当者 栗原 奨 ・米田 耕・今井 裕介・穂山 悠
授業の回数 8 回	時間数 1 6 時間	配当学年・次期 1 年 前期 後期	必須 ・選択
[授業目的・ねらい] 自分の適性や能力、関心などに気づき、自己理解を深めるとともに、福祉（精神保健福祉）の仕事について理解することにより、その中から自身に合った職場を主体的に選択できるようにする。自身の人生設計を明確にし、そのために必要な知識・資格の習得や仕事の選択を行うなど、自身が希望する進路を実現していくための授業を展開していく。 [授業修了時の到達課題（到達目標）] ○就職に向けての準備を進めることができる。 ○自身の適正に気づき適正にあった企業の選択ができる。 ○働き始めてからも長続きできるような就職ができる。 1. オリエンテーション 2. 就職活動の進め方 3. 進路希望調査～進路指導の手順 4. 履歴書・自己紹介書の書き方 5. 面接試験対策 6. 社会人としてのルールとマナー 7. 自己分析～社会人基礎力・性格～ 8. 自己PR～強み・スピーチ～			
[使用テキスト・参考文献] 特になし		[単位認定の方法及び基準] 80%以上出席の者に対し、授業態度、小テスト（レポートを含む）で総合的に評価する。	